

Spire_M

音楽のおくりもの Information

中学・高校版

p.2 開館20周年, 世界の音楽文化への入り口
「浜松市楽器博物館」

インタビュー／館長・嶋和彦さん



p.8 **楽譜** ソプラノ・リコーダー二重奏
愛の夢 第3番

フランツ・リスト 作曲／瀧口隆一 編曲

p.15 編集部からのお知らせとお願い

教育出版

開館20周年、世界の音楽文化への入り口

「浜松市楽器博物館」

インタビュー

館長・嶋和彦さん

聞き手／構成・音楽編集部

今年4月に開館20周年を迎えた浜松市楽器博物館。日本で初めての公立の楽器博物館として、「世界の楽器を偏りなく同じ目線で平等に展示する」というコンセプトのもと、世界中から集められた資料のうち約1300点を常時展示している。展示以外にもレクチャーコンサートやワークショップ、アウトリーチ、CDやDVDの制作など、様々な取り組みが行われてきた。

「楽器博物館として研究、教育、普及活動に取り組み、民族音楽学に大きく貢献」したとして、世界的に権威のある小泉文夫音楽賞※（2014年度）を受賞するも、「まだまだ成長途上」と話すのは館長を務める嶋和彦さん。ご自身と楽器との出会いから、楽器博物館の取り組みや今後の展望に至るまで、興味深いお話をたっぷり伺った。

※小泉文夫音楽賞は、世界の民族音楽の研究に生涯を捧げた元東京藝術大学教授 小泉文夫氏（1927～83年）を記念して、民族音楽学の分野でユニークな音楽研究または音楽活動をした個人あるいは団体の業績を顕彰するために設定された。

中学校教員から博物館職員へ



子どものころから音楽が好きでした。大阪府豊中市の出身ですが、高校生の頃から音楽活動をしていました。大阪音楽大学の元学長兼理事長の西岡信雄先生（浜松市楽器博物館名誉館長）にリコーダーと民族音楽を師事し、リコーダー・アンサンブルで演奏したり、子どものリコーダー・オーケストラを指導したりしていました。

大学卒業後、音楽活動は継続して行っていましたが、仕事としては地元公立中学校で英語科教員を務めていました。1990（平成2）年からはインドネシア・ジャカルタ日本人学校に転出していたのですが、ちょうどそのころ浜松市が全国初の公立の楽器博物館を設立する計画を進めていました。そして、その設立に向けて市のアドバイザーとして関わっていらっしゃったのが恩師の西岡先生だったのです。

いよいよ博物館オープンが目途が立った段階で西岡先生から連絡がありました。「浜松の楽器博物館の学芸員をやってみないか」。それまで浜松とは何の縁もなかったんです。東名高速道路を走っていて浜名湖サービスエリアに立寄るくらいで、浜松のインターを降りて市内に足を踏み入れたことはなかった（笑）それで転職を決めて、浜松に来たのが1994（平成6）年4月。それから1年間、博物館の設立準備に携わって、翌年4月に浜松市楽器博物館が開館しました。



日本初、浜松発の公立の楽器博物館



楽器博物館は、国立音楽大学¹にも武蔵野音楽大学²にも、それから大阪音楽大学³にもあります。しかし、それらはいずれも私立の音楽大学の附属施設です。ですから学生と教員のための教育・研究施設としての機能が第一であり、市民に対して開放する義務はない。一般の人にサービスとして開放はしているけれど、土曜・日曜や夏休みは閉館していることが多かったです。

一方で、浜松は公立の博物館です。博物館には資料の保存や修理、研究など、様々な役割がありますが、そのなかのひとつに一般市民への社会教育ということがある。学校ではないけれど、教育機関。そういう意味で、ここで働く職員には研究・発信という役割と同時に、おじいちゃんから子どもまで、多くの人々に対していろいろなことを伝えるという、いわば学校の先生のような役割もあるわけです。

ところで、なぜ浜松市が楽器博物館を設立したのでしょうか。

浜松市は、1980年代から「音楽のまちづくり」政策を進めてきました。「音楽のまち」というのは浜松だけでなく、日本各地にあります。例えば神奈川県川崎市がそうですね。しかしながら、日本における「音楽のまち」というのは、どこの「まち」も基本的には「西洋音楽のまち」です。日本人にとって音楽イコール西洋音楽、それもクラシック音楽。確かに日本における西洋音楽のレベルはすごいです。世界的な演奏家や研究者から一般愛好家までたくさんいます。ただし、音楽ジャンルとしては——西洋音楽に限ってもなお——ほんの一部分に過ぎない。それに加えて各地の「音楽のまちづくり」のコンセプトは、演奏活動を盛んにし、文化的な「まち」にしよう、というものがほとんどだと思います。

では、「音楽のまちづくり」を進めるうえで浜松の独自性となるものは何か。それは、日本の洋楽器産業発祥の地にして世界的な楽器メーカーがある、ということです。日本国内において西洋楽器製造が地場産業となっている「まち」は浜松のほかにはない。そこで、この世界的な地場産業を特色としつつ「音楽のまち」を特徴付けるためには、単なるホールでの演奏活動ではなく、何かしらシンボルが必要となります。それこそが日本にはまだなかった公立の社会教育施設としての楽器博物館だったのです。

¹ 国立音楽大学楽器学資料館 ² 武蔵野音楽大学楽器博物館 ³ 大阪音楽大学音楽博物館



▲館長・嶋和彦さん



▲（左から）薩摩琵琶、筑前琵琶、平家琵琶



▲ 100 点以上が展示されているアフリカの楽器

世界の音楽を全部一緒に



楽器博物館設立の計画が進められていたのは、政治的にも民族紛争が激化していた時代でした。学校教育においてもいろいろな国の文化を勉強しましょうということで、音楽の授業でもようやく邦楽をはじめとする諸民族の音楽が取り入れられてきました。



浜松は西洋楽器産業発祥の地であるから、ピアノだけの博物館にしたとしてもおかしくはない。でも、そうはしなかった。せっかくだから世界中の楽器の博物館にしよう——。そこで世界に先駆けて取り入れられたコンセプトが、「世界の楽器を偏りなく同じ目線で平等に展示する」だったのです。これは特筆すべき点だと思います。また、楽器はモノだけれど、その背後には当然音楽が、人間の文化がある。そういった目に見えないコトも紹介していこうということを大きな方針として決めました。

そういう博物館ですから、西洋音楽のことは知っているけれどほかの音楽のことはよく知らないとか、西洋音楽は大好きだけれどアジアの音楽は聴くのも嫌だ、というのでは職員は務まりません。たったひとつのもののさしのうでで考えるのはナンセンス。ですから、この博物館は西洋音楽をやみくもに素晴らしいというのではなく、反対に、日本の楽器は世界一だといった偏狭な愛国主義にもならない。全部一緒。なかば冷たい、一歩突き放した感覚が必要になります。もちろん個人的に好きな音楽はありますよ（笑）しかし、それは好き嫌いの問題であって、価値観の問題ではない。いろいろな文化に均等に接することが大切です。

例えば、音楽大学を卒業した人で、絶対音感を持っているんだけど、十二平均律ではない音階を聴いたときに気持ち悪いと感じてしまう人がいる。でも、私は思うのです。「それは何のための絶対音感なのか」と。どんな音楽も不快感をもたずに聴けて、楽器と音楽の背後にある人間の生活に対して学問的アプローチができる人。なおかつ子どもにもわかりやすく伝えることができる人。世界に向けて発信することを考えたら英語もできなければならない。そのような人が職員として理想です。どんな施設でもそうですが、どんなスタッフがいるかで施設の性格や価値は決まってくるものです。

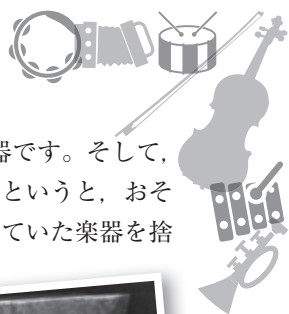
楽器を集め、展示する



楽器博物館が開館した当初は、ヨーロッパの楽器と日本の楽器しか展示がありませんでした。収集未完成のままオープンしました。アジアやアフリカの楽器を少しでも展示するようになったのは翌年の1996（平成8）年、現在のような展示になったのは2006（平成18）年のことです。今年でちょうど10年になります。

楽器収集に関して、こんなエピソードがあります。楽器博物館では市民をはじめ、一般の人からの寄付も受け付けているのですが、2000（平成12）年頃から足踏み式のオルガンがどんどん集まりはじめ





ました。いくら欲しいと思ってお金を積んでも、今では楽器店では売られていない楽器です。そして、それは浜松の楽器産業のルーツでもあります。どうしてそういう楽器が集まりだしたかというと、おそらく家を建て替えたり、蔵を壊したりする時期に重なったのだと思います。そこで眠っていた楽器を捨てるのはもったいない、ということで当館に寄付して下さった。全部で50～60台はあります。なかでも珍しいのは、田中^{しょうへい}正平（1862～1945）という人がつくった「純正調オルガン」。日本には現物は4台しかないです。また、楽器の下部を布で囲った「大和オルガン」は西洋楽器に日本的な美を融合した素晴らしいものだと思います。

楽器ではないけれど、切手の展示があります。展示されているのはほんの一部ですが、所蔵は全部で3万枚ほどあります。世界最大のコレクションです。現物はなくなってしまった楽器が描かれている切手もあって、資料として貴重です。

こつこつと真面目に活動が続けていると、「浜松になら寄付してあげよう」という気持ちになってくれる人が現れます。これはありがたいことです。今も年間平均で10件前後の寄付の連絡があります。まだまだ欲しい楽器はいっぱいありますよ（笑）

また、現在展示コーナーが設けられている電子楽器ですが、これは2003（平成15）年に開催した「楽器と20世紀～夢と憧れ・創造と忘失～」という特別展がきっかけとなっています。日本を代表する電子楽器のメーカー各社から、自社に飾っていた貴重な電子楽器などを「多くの人に見てもらいたい」ということで、無期で貸し出ししていただいたりして展示しています。50代後半から60代の方が若かりし頃に使っていた思い出の楽器や類似品があるので、子どもと一緒に来たお父さんが楽器の前で自慢話をしている光景をよく見かけます（笑）

何百年前の楽器も大切ですが、現代の楽器も大切です。例えば美術館に行くと、昔の絵画を展示している横で、今を生きる作家の作品も展示していたりしますよね。博物館だって同じです。昔のもののばかりじゃなくて今のもも展示してしかるべきです。今集めたら100年後には100年前のものとして価値が出てくるのですから。ただ、電子楽器などは日進月歩で、毎年モデルチェンジするから集め出したらきりがありません。本当はアメリカ製の古いギターなども展示したいのですが……。楽器博物館は、音楽のジャンルを超えて、音楽や楽器とは何だろう、ということを考える場になったらよいと考えています。



▲純正調オルガン



▲電子楽器の展示コーナーに並ぶ希少なシンセサイザー



原則として展示ケースに入れない「露出展示方式」なので、楽器の質感を間近に味わえる。

博物館、小学校へ行く



たくさん子どもに楽器博物館を見てもらいたいと思っていますが、浜松市は交通の便が悪いので、郊外に住んでいる子どもたちが博物館のある市街地まで来るのはなかなか大変なことです。だったら楽器博物館から郊外に行きましょう、ということで2000(平成12)年から始まったのが市内小学校への「移動楽器博物館」というアウトリーチプログラムです。毎年数校で開催しています。単に楽器を展示して見てもらうだけではなく、楽器やその国の人びとの暮らしについて話をしたり、実際に楽器の演奏を体験してもらったりすることで、世界の人びとの暮らしについての理解を深めることを目的としています。子どもたちには大人気です。移動博物館をすると、だいたい各学校で一人か二人、楽器ファンができて、休みの日に博物館まで来てくれることもあります。

まだまだ成長途上の「入り口」

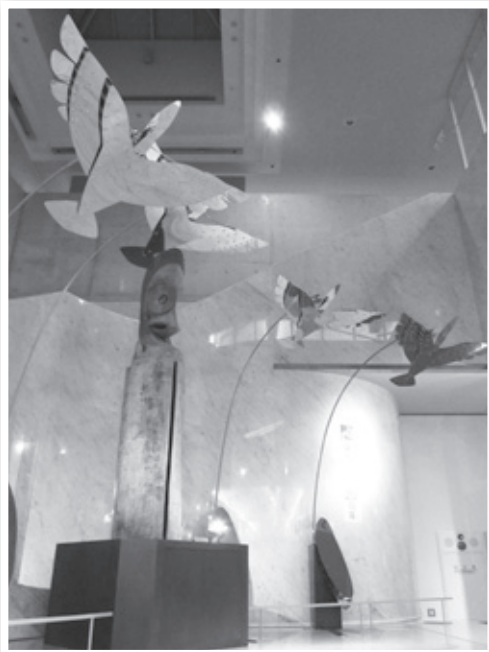


ものごとは何でもそうですが、ある日突然変わるなんてことはありません。バロック時代のチェンバロから、いきなり現代の黒いグランドピアノに変化したと思っている人がどれほどいるかわかりません……。常に様々なものごとはお互いに重なり合いつつ、その中からだんだんと多数派が形成されていきます。こういう歴史観をもたずに「今の最新のグランドピアノでベートーヴェンを弾くのが最高!」と言うのはおかしいです。だって、ベートーヴェンの時代に今のような大きなピアノはなかったでしょう!?(笑)

では、そういうことを知るにはどうしたらよいのか。もちろん本やインターネットで調べれば知ることができます。ところが、そこにたどり着く人は、最初から楽器や音楽に興味のある人です。一方で楽器博物館は、時間潰しでたまたま立ち寄るという人もいます。そういうごく一般の人が、展示を見てまわっているうちに楽器に興味を持つということもあります。そこがポイントではないでしょうか。すごくうまくピアノを弾ける人から音楽にコンプレックスを持っている人まで、実にいろいろな人が訪れます。そういう人びとに対して、それぞれのレベルでいろいろな刺激を与えるということが大切だと考えています。

さらに、私が大事だと思うのは、「知っていることより知らないことの方がよっぽど多い」ということを知っているかどうかです。知らないけれど知った気持ちになっているのが、いちばんよくない。仕事柄、プロからアマチュアまで多くの音楽家に接してきましたが、すばらしい音楽家ほど謙虚です。「知らない」ということをよく知っています。何にも知らない人ほどテレビに出て知ったようなことを言っている(笑) そういうふうにならないように、気を付けています。

浜松市楽器博物館は20周年を迎えましたが、まだまだ成長途上です。どこの博物館にしても、博物館に完成ということはありません。常に成長、常に変化しなければならないです。これでいい、ということはない。子どもがいろいろなことを知りたい、学



◀地下展示室の一角にある「天空ホール」
バヌアツの世界最大のスリットドラムがシンボル



びたいと思うのと同じように、博物館というのもひとつの有機体としていろいろなことを吸収して成長していかなければなりません。1年間でやれることにはキリがあるので、少しずつしか変わらないですが……。

どの国の音楽も楽器も本当にすごいです。楽器は、それが使われていた当時の社会と密接に結びついていて、そういう意味でもとても奥深い。ところで、「楽器博物館だから音楽でしょう？」って思う人がいるかもしれませんが、私は「楽器博物館だからこそ美術ですよ」と言いたくもなります。楽器が映し出すのは民族の模様です。デザインの見本です。ここに美術の先生が来たら、ものすごいインスピレーションを得られると思いますよ。楽器の背後にある人間の生活、それを知るためのひとつの手掛かり、入り口。それが浜松市楽器博物館です。



▲所蔵楽器を用いたコンサートも行われている
(演奏・川口成彦／フォルテピアノ)



▲思わず見入ってしまう奇抜なデザインの
「ジラフピアノ」



▲楽器を前にして、その演奏の様子を映像で楽しめる



▶様々な形をした
「ヴァイオリン」

浜松市楽器博物館

●住 所／〒430-7790 静岡県浜松市中区中央3-9-1 (JR浜松駅北口より徒歩10分)

●電話番号／053-451-1128

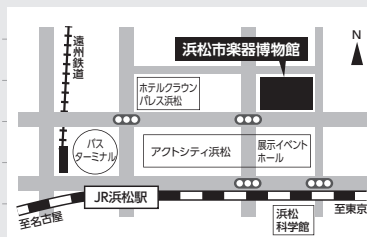
●開館時間／9:30～17:00

●休 館 日／毎月第2・4水曜日(祝日の場合は翌日, 8月は無休),

館内整理・施設点検日, 年末年始, その他臨時休館日

●入 場 料／大人400円, 高校生200円, 中学生以下無料(団体割引あり)

<http://www.gakkihaku.jp/>



愛の夢 第3番

ソプラノ・リコーダー二重奏 (ピアノ伴奏付き)

フランツ・リスト 作曲／瀧口隆一 編曲

Animato (生き生きと) ♩ = 132 ぐらい

A

ソプラノ・リコーダー1

ソプラノ・リコーダー2

ピアノ

p *simile*

to $\oplus$

to $\oplus$

B

(V)

p

p

C

First system of music, measures 1-4. The score is in 2/4 time with a key signature of one sharp (F#). The top staff (treble clef) contains a melody starting on G4, moving to A4, B4, and then a half rest. The bottom staff (treble clef) contains a bass line starting on B3, moving to C4, D4, and then a half rest. The piano part (grand staff) features a continuous eighth-note accompaniment in the right hand and a bass line in the left hand. Dynamics include *p* (piano) at the start and *mp* (mezzo-piano) at the end of the system.

Second system of music, measures 5-8. The top staff (treble clef) has a half rest in measure 5, followed by a half note B4 in measure 6, and a half note A4 in measure 7. The bottom staff (treble clef) has a half note B3 in measure 5, followed by a half note C4 in measure 6, and a half note D4 in measure 7. The piano part continues with eighth-note accompaniment. Dynamics include *f* (forte) in measures 6 and 7, and a crescendo (*cresc.*) in measure 5. The system ends with a repeat sign and a first ending bracket labeled (V).

Third system of music, measures 9-12. The top staff (treble clef) has a half note B4 in measure 9, followed by a half note A4 in measure 10, and a half rest in measure 11. The bottom staff (treble clef) has a half note B3 in measure 9, followed by a half note C4 in measure 10, and a half note D4 in measure 11. The piano part continues with eighth-note accompaniment. Dynamics include a decrescendo (*dim.*) in measure 10. The system ends with a repeat sign and a first ending bracket labeled (V).

First system of a musical score in G major (one sharp). It consists of two staves. The upper staff has a treble clef and a soprano 's' marking. The lower staff has a bass clef. The music features a melodic line in the upper staff and a rhythmic accompaniment in the lower staff. A 'rit.' (ritardando) marking is present at the end of the system.

Second system of the musical score. It continues the melodic and rhythmic themes. A 'p' (piano) dynamic marking is used. The system concludes with the instruction 'D.S.' (Da Segno).

Third system of the musical score. It features a 'a tempo' marking and a 'rit.' (ritardando) section indicated by a dashed line. The system ends with 'D.S.' (Da Segno).

⊕ Coda
D

Fourth system of the musical score, marked as a Coda. It contains a short melodic phrase in the upper staff and a corresponding bass line in the lower staff.

⊕ Coda

Fifth system of the musical score, also marked as a Coda. It features a more complex rhythmic pattern in the upper staff, with a steady bass line in the lower staff.

Musical score for piano, featuring a piece in D major. The score is divided into four systems, each with a grand staff (treble and bass clefs).

System 1: The right hand (RH) begins with a melodic line marked *p* (piano). The left hand (LH) provides a harmonic accompaniment.

System 2: The RH continues with a melodic line, marked *L.H.* (left hand). The LH continues with a harmonic accompaniment.

System 3: The RH continues with a melodic line, marked *rit.* (ritardando). The LH continues with a harmonic accompaniment.

System 4: The RH continues with a melodic line, marked *rit.* (ritardando). The LH continues with a harmonic accompaniment.

System 5: The RH continues with a melodic line, marked *smorzando* (音を弱くしながら, だんだん遅く) (fading out, gradually slowing down). The LH continues with a harmonic accompaniment.

The score concludes with a final cadence in the RH and a sustained bass note in the LH.

音楽鑑賞用 DVD

オーケストラ入門

Guide to the Orchestra

- ♣ 世界が注目する若きマエストロ、アラン・ギルバートのリハーサルを収録
- ♣ オーケストラの歴史や楽器の紹介等、音楽鑑賞教育授業に役立つアイテムを収録
- ♣ ライブラリアンやステージマネージャーの仕事も紹介
- ♣ 協奏曲や大編成オーケストラ等、オーケストラの魅力が満載

✧ 収録内容 ✧

◆オーケストラの歴史（約4分）

ハイドンとモーツァルト／2管編成のオーケストラ／小編成から大編成のオーケストラへ

紹介曲…交響曲第35番ニ長調 K.385「ハフナー」から（モーツァルト作曲）

◆オーケストラで使用される主な楽器（約21分）

木管楽器／金管楽器／打楽器／ハープ／弦楽器

紹介曲…交響組曲「シェエラザード」作品35第2楽章（リムスキー・コルサコフ作曲）シャルル・デュトワ指揮／NHK交響楽団

◆ステージに上がるまで（約23分）

リハーサルから本番まで

紹介曲…交響曲第3番変ホ長調作品55「英雄」第1楽章（ベートーヴェン作曲）アラン・ギルバート指揮／NHK交響楽団

◆協奏曲—ソリストと共演するオーケストラ（約12分）

紹介曲…ピアノ協奏曲第2番ハ短調作品18第3楽章（ラフマニノフ作曲）イム・ドンヒョク（ピアノ）／シャルル・デュトワ指揮／NHK交響楽団

◆大編成の管弦楽曲（約13分）

紹介曲…交響詩「英雄の生涯」作品40から抜粋（リヒャルト・シュトラウス作曲）シャルル・デュトワ指揮／NHK交響楽団



定価：本体 17,000 円 + (税)

全 1 巻／約 72 分／解説書（A5 変型判 12p）付

監修：池辺晋一郎（作曲家／東京音楽大学教授）

協力：NHK 交響楽団

資料協力：武蔵野音楽大学楽器博物館、音楽之友社

発行：NHK エンタープライズ

発売元：教育出版株式会社 TEL 03-3238-6908

音楽鑑賞用DVD

日本の伝統音楽

● 主な収録曲 ●

能「俊寛」
人形浄瑠璃「平家女護島」
歌舞伎「平家女護島」
長唄「京鹿子娘道成寺」
平曲「那須与一」
歌舞伎「連獅子」
人形浄瑠璃（文楽）「国性爺合戦」
江差追分
谷茶前 など約30コンテンツ収録



世界の諸民族の音楽

● 主な収録曲 ●

ゴスペル（アメリカ）
ホーミー（モンゴル）
ヨーデル（スイス）
バグパイプ（イギリス・スコットランド地方）
グリオの語りと音楽（西アフリカ）
タブラー・シタール（インド）
バラライカ（ロシア）
アルフー（中国）
カヤグム（朝鮮半島）
ケチャ（インドネシア・バリ島）
ガムラン（インドネシア・バリ島）
イヌイットの喉遊び歌（カナダ・アラスカ等）
仮面劇「コーン」（タイ） など約40コンテンツ収録

各収録時間 約70分

各本体 15,000円+税

制作 NHKエンタープライズ

発売 教育出版

打楽器のいろいろなノウハウが満載！

打楽器 イロハ

小田 もゆる 著

本体1,600円+(税)B5判 72ページ

私たちの身近にある多種多様な打楽器の演奏法はもちろん、手入れや運搬方法などにも触れた実用書。

各楽器の演奏の基本を、豊富な譜例や写真を用い、筆者ならではの観点で楽しく解説。



分かりやすい
写真付き解説！



内容

第1章 ～身近な打楽器～

タン布林、カスタネット、トライアングル、ウッドブロック、すず、スレイベル

第2章 ～オーケストラでよく使われる打楽器～

大太鼓、ティンパニ、シンバル、小太鼓

第3章 ～音階のある打楽器～

マリンバ、シロフォン、ヴァイブラフォン、グロッケンシュピール

第4章 ～個性的な打楽器たち～

マラカス、ギロ、カウベル、クラベス、ボンゴ・コンガ、ドラム、和太鼓、ヴァイブラ・スラップ、どら、ラチェット、フレクサトーン、むち、ハーモニックパイプ、レインスティック

第5章 ～アンサンブルで楽しもう～

トーンチャイム、ミュージックベル、チューンド・パーカッション・チューブ

第6章 ～バチ～

バチの種類、バチの持ち方・構え方

第7章 ～作ってみよう～

身近なもので音をだしてみよう、竹楽器を作ってみよう

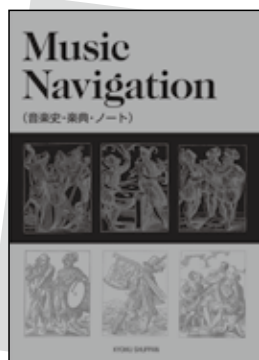


教育出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10
TEL 03-3238-6965 FAX 03-3238-6999

Music Navigation

指導要領にあわせて
全面改訂



- 1 音楽史、楽典の内容を高校教科書の内容にあわせて大幅改訂しました。
- 2 あらたに「ソルフェージュ」「スコアの読み方」「新曲視唱」を掲載しました。
- 3 オーケストラの変遷がビジュアルによって理解できます。
- 4 五線紙や鑑賞の記録、メモ帳も充実していますので、学習の記録を残すことができます。

B5判 136ページ／別冊解答 付／本体552円＋税

編集部からのお知らせとお願い

平成27年度用高等学校教科書（「音楽Ⅰ Tutti」「高校音楽Ⅰ Music View」「音楽Ⅱ Tutti」「高校音楽Ⅱ Music View」「音楽Ⅲ」）の下記の箇所にて訂正がございます。また、教師用指導書におきましても関連修正がございます。大変恐縮でございますが、ご指導の際には、ご配慮くださいますようお願い申し上げます。

●共通

ページ	行・箇所	原文	訂正文
⑦	左上	ヒュドラ <u>リ</u> ウス	ヒュドラウ <u>リ</u> ス
⑦	右中	バンショウ（1400 頃～60） <u>が</u> 等活躍	バンショウ（1400 頃～60） <u>等</u> が活躍

●音楽Ⅰ Tutti

ページ	行・箇所	原文	訂正文
23	冬景色 2段1小節目 3番歌詞	おりて	ふりて
34	4段2小節目		
99	2段2小節目 3段4小節目 4段6小節目		

●高校音楽Ⅰ Music View

ページ	行・箇所	原文	訂正文
78	能楽『俊寛』	ツレ：坂真太郎、 ^{わけばやしみちる} 分林道治	ツレ： ^{わけばやしみちる} 分林道治

●音楽Ⅱ Tutti

ページ	行・箇所	原文	訂正文
40	下	旋律を <u>元</u> となっている。	旋律が <u>も</u> となっている。

●音楽Ⅲ

ページ	行・箇所	原文	訂正文
13	1段2小節目		
120	左中	ヒュドラリウス	ヒュドラウリス



第13回

まもなく締め切り!!

地球となかよし メッセージ

作品募集 (2015年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、
写真 (またはイラスト) にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に
参加賞が
もらえるよ!

応募資格	小学生・中学生 (数名のグループ単位での応募も可)
応募期間	2015年7月1日～9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。
作品 テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境 や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交 流、国際理解に関すること ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

◎主催/教育出版 ◎協賛/日本環境教育学会
◎後援/環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞
*協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね
<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

教育出版

「地球となかよし」事務局

TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

前回
入選作品

挿し木

私は「挿し木」について考えました。私の家には、枝が長くとても高い「ウンペラータ」という木があります。その木のびすぎているので、枝を切ってまた小さい木を育てはじめたり、いこにわけたりしています。このように、少しずつ木を増やしていくことによって、酸素がふえて環境にいいことを改めて感じました。しかも、タネから育てるよりも早く大きく育ちます。そして、一つの木から何個かにわけるので、良いところを受けつぐことができます。私の家ではいろいろな木や草、花を育てています。それらは、私たちの生活にかかせない大切なものです。植林などもありますが、身近な家にあるものでも、少しずつ環境にやさしいことをしていきたいです。そして、一人一人が「植物」を大切にすることで、これからの将来につながると 생각합니다。



中学・高校音楽通信 **Spire_M** [2015年 秋号] 2015年9月1日 発行

表紙写真撮影協力: 浜松市楽器博物館

編集: 教育出版株式会社編集局 発行: 教育出版株式会社 代表者: 小林一光
印刷: 大日本印刷株式会社 発行所: 教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
函館営業所	〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一生命ビルディング 3F TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
中部支社	〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
関西支社	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
中国支社	〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
四国支社	〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
九州支社	〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-11-30 クレセント東福岡 E 室 TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
沖縄営業所	〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411